

フロンティアスクール用報告書

都道府県名	広島県
-------	-----

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	山県郡戸河内町立松原小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	1/2	1/2	1/2	1/2	1/2	1/2	1	4	8
児童数	3	4	2	4	1	2	1	17	

研究の概要

1. 研究主題

<p>「一人一人が確かに学ぶ子どもの育成」 ～国語科における基礎・基本の定着を図る指導法の工夫改善を通して～</p>
--

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

<p>【全学年・国語科】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・完全複式である本校の実態を考えたときに、全学年共通の教科に絞り、研究を進めていくことが望ましいと考えたため。</li> <li>・前年度の研究の課題から、国語科における「話す・聞く」などに重点をおいて児童の学力を伸ばしていく必要性が明らかになった。</li> <li>・「国語科」の学力は他教科の基礎として大切であり、国語科の学力が伸びると他教科の学力も伸びると考えた。</li> </ul>
---

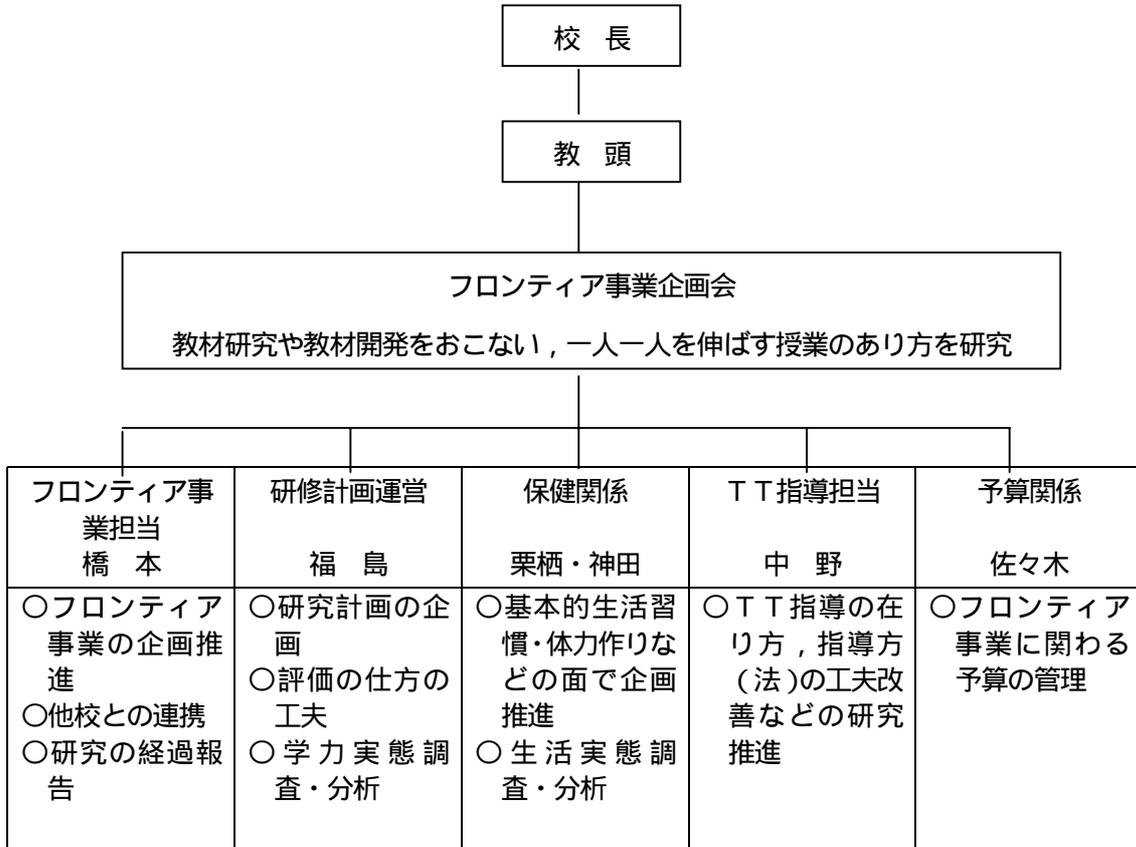
(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>研究主題</p> <p style="text-align: center;">「一人一人が確かに学ぶ子どもの育成」 ～国語科における基礎・基本の定着を図る指導法の工夫改善を通して～</p> <p>研究の仮説</p> <p>[仮説1]</p> <p>複式の授業において、リーダー学習の在り方を研究し、児童に学習リーダーとしての力を育成することができれば、児童の学習に対する意欲を育て、学力を向上させることができるだろう。</p> <p>[仮説2]</p> <p>少人数を生かした個に応じたきめ細かな指導をすれば、学力を向上させることができるだろう。</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>[仮説1]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リーダー学習を取り入れた複式授業の工夫改善</li> <li>・学習規律の確立</li> </ul>
--------	---

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートや教材開発</li> </ul> <p>[仮説 2]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個人カードの作成と活用</li> <li>・全校ドリルタイム</li> <li>・T T 指導の工夫改善</li> <li>・振り返りカードの作成</li> <li>・C R T テストによる児童の学力の分析</li> </ul>
--	--

平成 16 年 度	<p>研究主題 「一人一人が確かに学ぶ子どもの育成」</p> <p>研究の仮説</p> <p>[仮説 1] 複式の授業において、リーダー学習の在り方を研究し、児童に学習リーダーとしての力を育成することができれば、児童の学習に対する意欲を育て、学力を向上させることができるだろう。</p> <p>[仮説 2] 少人数を生かした個に応じたきめ細かな指導をすれば、学力は向上するだろう。</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>[仮説 1] ・各学年の実態に応じたリーダー学習のモデル図（学習指導過程における自力学習の系統例）の見直しと作成 ・各学年の実態に応じた学習規律の在り方の見直しと作成</p> <p>[仮説 2] ・個人カードの作成と活用 ・T T 教諭の活用方法と支援のあり方 ・国語科を中心に、複式学級、リーダー学習に活用できるワークシートや教材開発 ・児童の振り返りカードの作成と活用 ・C R T テストによる児童の学力の分析</p>
--------------------	--

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1 仮説1にかかわる取り組み

(1) 複式指導の充実

学習リーダーの育成について

複式の授業を進めていく上で、間接指導をいかに充実させていくかということは重要である

間接指導時に、子どもたちが自学できる力を育てることができれば、間接指導は充実するだろう。

学習リーダーの育成 = 間接指導の充実 と考えられる。

学年ごとに実態に合わせた学習リーダーのパターンを作成し、指導を行うこととした。

## ○基本的なパターン

〔低学年〕～ワークシートの流れに沿って学習していく～

- ・本時のめあてを確認する。
- ・教科書や問題を読むときは、リーダーが進めていく。
- ・個々で考える場面では、リーダーが基本的には決められた時間を計る。時間が足りなくなったときは、みんなの意見を聞きながらリーダーが時間を決める。
- ・考えを深める場面では、意見を出し合うまではリーダーが中心になって発表していく。その後、直接指導で意見を練り合う。
- ・本時のめあてに沿って、学習の振り返りをする。
- ・個人の学習が早く終わった時には、自分で学習することを見つける。

〔中学年〕～ワークシートやリーダーノート、学習の進め方の流れに沿って、学習していく～

- ・教科書や問題を読むとき、自分の意見や考えを発表するときは、リーダーが進めていく。
- ・個々で考える場面では、基本的には決められた時間をリーダーが計る。時間が足りなくなったときは、みんなの意見を聞きながらリーダーが時間を決める。
- ・考えを深める場面では、リーダーが中心となって意見を発表していく。その後、意見・考えが同じもの・違うものに分類していく。原則として、直接指導で意見の練り合いをする。お互いの意見・考えを聞いて、よいところを認め合える。
- ・本時のめあてに沿って、学習の振り返りをする。
- ・個人の学習が早く終わった時には、リーダーが本時の学習に関連のある課題を見つけ、みんなに伝え、学習を進める。

〔高学年〕～リーダーの指示に従って学習を進める～

- ・リーダーは、本時のめあての確認、学習の計画、時間設定をする。
- ・リーダーの指示に従い、一人一人が学習を進める。
- ・考えを深める場面では、リーダーが司会をしながら意見を発表し合い、交流する。
- ・互いの意見を聞き、質疑の後、課題が解決できたかどうか確かめる。この場面では、直接指導を原則としながら、リーダーが進行する。
- ・学習課題を解決することができたかどうか振り返りをする。
- ・課題解決が早く終わった時は、さらに学習を深める課題を明らかにし、解決する。

## 学習指導過程における自力学習の系統例

	低 学 年	中 学 年	高 学 年
課 題 を 持 つ ・ 直 接	1. 何を勉強するのか、はっきりつかむ。 ・ノートやワークシートを見て、勉強することをつかむ。 ・勉強のめあてを聞く。	1. 何を勉強するのか、はっきりつかむ。 ・教科書やワークシート、ノートを見て、学習のめあてをつかむ。 2. 学習の順序や方法を考える。 ・これまでの勉強の方法を思い出す。 ・どんな順序で学習したらよいか、考える。	1. 何を学習するのか、はっきりつかむ。 ・自分の疑問から課題を作る。 ・教科書を見て、学習のめあてや課題をつかむ。 2. 学習の順序や方法を考える。 ・これまでの学習から考える。 ・解決の方法や見通しを立てる。
自 力 解 決 ・ 間 接	2. 自分で課題について考えてみる。	3. 自分で課題について考えてみる。 ・これまでの学習を基に考える。 ・ほかの考え方がよいか、考える。 ・考えた理由を整理する。 ・発表の仕方を考える。	3. 自分で課題について考えてみる。 ・課題に関係ある言葉に印をつける。 ・いろいろな考え方を工夫する。 ・これでよいか確かめをする。 ・理由を考え、発表の準備をする
練 り 上 げ ・ 直 ／ 間	3. 自分でやったことを話し合ってみる。 ・自分の考えを発表する。 ・友達のやりかたや考えをよく聞く。 ・だれが良い考え方をしているか考える。	4. みんなで考えを発表し合う。 ・自分の考えを理由をつけて発表する。 ・友達の発表をよく聞き、自分の考え方と比べる。 ・だれの考え方がよいか話し合う。	4. みんなで考えや自分の思いを発表し合う。 ・お互いの考えを理由をつけて出し合う。 ・友達の発表をよく聞き、自分の考えや思いと比べる。 ・だれの考えがよいか話し合う。 ・どんなところが自分と違うのか、その理由を考える。 ・新しい考えについてまとめる。
応 用 す る ・ 間 ／ 直	4. 学習したことをまとめる。 ・わからないところは、聞いて確認する。 ・今日の勉強の振り返りをする。 ・次の勉強はどんなところか先生の話聞く。	5. 別の疑問について、考える。 ・答え合わせをして、間違いがあれば理由をみんなで考える。 ・今日学習したことでわかったことを振り返る。 ・次の時間に、どんなことを学習するのか、確かめる。	5. 学習の課題について、新たに出てきた疑問を学習してみる。 ・答えを出し合い、理由をみんなで考える。 ・今日学習したことで、わかったこと、疑問点をどう解決したか整理する。 ・次に学習するところをつかみ、課題を持つ。

## 2 仮説2にかかわる取り組み

### (1) TTによる指導形態の工夫

<パターン> 難易度の高い課題の指導，1年生の入門期に活用

A学年		B学年	
1 課題把握	直接指導 T 1	1 課題把握	直接指導 T 2
2 課題自己解決	直接指導 T 1	2 課題自己解決	直接指導 T 2
3 課題集団解決	直接指導 T 1	3 課題集団解決	直接指導 T 2
4 まとめ	直接指導 T 1	4 まとめ	直接指導 T 2

<パターン> 個々の課題に応じた個人指導を中心に行う。

A学年		B学年	
1 課題把握	直接指導 T 1 T 2		間接指導
2 課題自己解決	間接指導 T 2	1 課題把握	直接指導 T 1
3 課題集団解決	直接指導 T 1 T 2	2 課題自己解決	間接指導
4 まとめ	間接指導 T 2	3 課題集団解決	直接指導 T 1
		4 まとめ	

<パターン> リーダー学習等，間接指導の支援を行う。

A学年		B学年	
1 課題把握	直接指導 T 1		間接指導 T 2
2 課題自己解決	間接指導 T 2	1 課題把握	直接指導 T 1
3 課題集団解決	直接指導 T 1	2 課題自己解決	間接指導 T 2
4 まとめ	間接指導 T 2	3 課題集団解決	直接指導 T 1
		4 まとめ	

(2) 学習規律の定着に向けて

- ・『学習の基礎・基本』として、低・中・高学年それぞれの発達段階に応じてつけたい力をまとめ、取り組んでいる。
- ・全学年で統一した発表の方法を指導していくために、共通の『発表のルール』を作り、指導している。
- ・複式授業においては、2学年が同一の教室で学習しているため、声の大きさに気をつけなければならない。また、発表する声の大きさにも課題がある。そこで、『こえのものさし』を利用し、学校全体で基準を作り取り組んでいる。

**学習の基礎・基本**

	低 学 年	中 学 年	高 学 年
学 習 に 対 す 姿 勢	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 休憩時間に、教科書・ノート・えんぴつ・消しゴムを出しておく。</li> <li>・ 正しい鉛筆の持ち方を身につける。</li> <li>・ 正しい姿勢を身につける。</li> <li>・ 時間割をきちんとする。</li> <li>・ 10～20分程度の家庭学習を帰ってすぐにやる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ チャイムが鳴るまでに学習に必要なものを考え、机上に整理しておく。</li> <li>・ 30～45分程度の家庭学習を帰ってすぐにやる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習場面を読んでおく。</li> <li>・ 45分～1時間程度の家庭学習を帰ってすぐにやる。</li> <li>・ 予習・復習など自分で考えた家庭学習をする。</li> </ul>
聞 く	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 話を終わりまで聞く。</li> <li>・ 話し手を見て反応しながら聞く。(表情、つぶやき・うなずきなど)</li> <li>・ 友達の意見や間違いを笑わない。</li> <li>・ よく聞こえないときは、「もう一度言ってください。」と言う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 話し手に対面して聞く。</li> <li>・ 発言の要点をつかんで聞く。</li> <li>・ 自分の考えと比べながら聞く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 話の要旨を考えながら聞く。</li> <li>・ 話の要点をメモしながら聞く。</li> <li>・ 分からないことに対して「～なのでもう一度言ってください」「～からもう少し詳しく説明してください」などの要求をする。</li> </ul>
話 す	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 手を挙げて、指名をされてから発表する。</li> <li>・ 指名されたら「はい」と返事をして、立って発表する。</li> <li>・ 聞いていない人がいるときは、「聞いてください」と言う。</li> <li>・ 一番遠くの人を見て、はっきりと聞こえるように発表する。</li> <li>・ 終わりまできちんと話す。</li> <li>・ 「～です。どうですか」と聞いている人に確認する。</li> <li>・ 自分の考えを進んで発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 聞き手に対面して話す。</li> <li>・ 意見は手を挙げて発表する。</li> <li>・ 自分の意見に理由をつけて発表する。</li> <li>・ 発表する場所に応じた声の大きさとで発表する。</li> <li>・ 分かっていること、分からないことを整理して言う。</li> <li>・ 目的に応じた言葉遣い、声の大きさ、速さで話す。</li> <li>・ 友達の意見につなげて発表する。(付け加え、賛成、反対)</li> <li>・ 要点をはっきりさせて相手に分かりやすく話す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 相手や場に応じた言葉遣い、声の大きさ、速さで話す。</li> <li>・ 友だちの意見に関わらせた発表をする。(付け加え、賛成、反対の理由もつける。)</li> <li>・ 聞き手にしっかり伝わっているか確認しながら話す。</li> <li>・ 論点を明確にして話す。</li> <li>・ 例を挙げるなど工夫をして話す。</li> </ul>

## 2. これまでの成果

### 仮説1にかかわって

- ・リーダー学習のあり方について研究し、自学自習の系統例を作成し、学習活動の進め方について見通しをもつことができた。
- ・学習規律の徹底を図り、「学習の基礎・基本」を明らかにして指導をすることで、学習への取り組み方をつかませることができた。

### 仮説2にかかわって

- ・複式指導におけるTT指導のパターンを明らかにすることができた。
- ・振り返りカードの記入を通して、児童の学習意欲を引き出せたり、以後の指導に役立てることができた。

## 3. 今後の課題

### 仮説1にかかわって

- ・本年度作成した「学習の基礎基本」の見直しをおこない、来年度へ向けて、その定着のための取り組みを進めていく。
- ・「学習指導過程における自力学習の系統例」が各学年の実態に合うものになるよう見直しを行い、来年度は、その定着に向けての取り組みをさらに進めていく。

### 仮説2にかかわって

- ・「児童の振り返りカード」「個人カード」の活用がまだ不十分であり、内容の精選と更なる活用が必要である。
- ・複式指導におけるTT指導のパターンが明らかになってきたが、どこで、どういう支援をすることが、児童が意欲を持って主体的に取り組むことにつながるのか、明らかにしていくことが必要である。

### 学力等把握のための学校としての取り組み

- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"><li>・学期ごとに、学力テストを実施し、実態把握をする。</li><li>・年度末にCRT学力診断テストを実施し、分析をおこなう。</li><li>・生活実態調査をおこない学力向上のための生活指導に活かしていく。</li><li>・学期ごとに、アンケートを実施する（保護者、児童に対して）。</li><li>・個人カードでの振り返りをおこなう。</li></ul> |
|---|

## フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・研究公開の実施（平成16年度2学期開催予定）。
- ・本校のHPに学力向上フロンティアスクールの項目を作成し、定期的に更新。
- ・芸北地区協議会への参加，報告。

芸北地区協議会において，管内小・中学校に研究の方向性や具体的な取り組みなどについて発表。

- ・ 第1回芸北地区協議会 7月29日 千代田町役場
- ・ 第2回芸北地区協議会 11月7日 向原小学校・向原中学校
- ・ 第3回芸北地区協議会 12月9日 土師ダム研修センター
- ・ 第4回芸北地区協議会 2月5日 芸北地域事務所

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】	1 5年度からの新規校	1 4年度からの継続校		
【学校規模】	6学級以下	7 ~ 1 2学級		
	1 3 ~ 1 8学級	1 9 ~ 2 4学級		
	2 5学級以上			
【指導体制】	少人数指導	T . Tによる指導		
	一部教科担任制	その他		
【研究教科】	国語	社会	算数	理科
	生活	音楽	図画工作	家庭
	体育	その他		
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】		有	無	

国 語 科 学 習 指 導 案

指導者 安藤正弘

- 1 日時 平成15年10月30日(木) 13:00~
- 2 学年 第5学年 男子 1名
- 3 単元名 心の通い合いを読み取るう 「わらぐつの中の神様」
- 4 単元について

- ・ 本学級児童は、素直で学習に対しても意欲を持って取り組んでいる。基礎・基本の内容をおおむね理解している。間接指導の時も、指示したことはきちんとやりきる力を持っている。  
児童は、これまでの学習で言葉について多くのことを学んできた。「プラムクリークの土手で」の学習では、自分で課題をつくり、学習方法を考えて課題を解決していく、という取り組みをしている。学習の中で、分からない言葉や難しい言葉に出会うと必ず辞書で意味を調べることが習慣化している。しかし、表現しようとする時には、これまでの経験の中での全体的な語彙は少ないように感じることもある。朝の読書の時間には、集中して読書し、長い物語を最後まで読むことができるようになってきている。しかし、登場人物の気持ちやその変化を深く読み取ることが十分にできているとはいえない。
- ・ 本教材は、「おみつ」さんの心の通い合いを通して、どんなものにも大切な心(神様)がいるような思いを持たせる構成になっている。作品の構成は、「現在-過去-現在」と、時間の行き来があり、また、それに伴って場面の飛躍的な転換もあって、ひと味違ったおもしろさがある。なぞ解きのような一面もあって、読者の興味を先へと導くおもしろさがある。「心をこめて作ったものには、神様が入っている」という一文は、この教材のテーマとして、人の心を引き留め、清らかにさせる、大切にしたい表現である。
- ・ 指導に当たっては、大工さんの行動や表現に即して読み取り、「心をこめて作ったものには、神様が入っている」という言葉の背景にある考え方に迫らせたい。読み取りについては、初発の感想から、学習課題を作り、学習方法を考えて自分の読みを深め、課題を解決していかせたい。そして、心の通い合いについて自分なりの考えを持てるようにさせたい。そのために、学習計画や読み取りの方法について具体例を示しながら読み取っていく方法について一緒に考えていくようにしたい。  
研究主題を達成するために、自ら課題を持ち、その課題を解決していくために、課題設定、学習計画、課題解決方法を考える、という学習活動を取り入れた。課題の深さや学習方法の幅は広いとはいえないが、自分の力で課題を解決していく、という過程を少しずつ身につけていくことができると思う。

- 5 単元の目標  
物語に感動し、物語を探し、進んで読むことができる。(関心・意欲・態度)  
登場人物の人物や情景、心の動きを叙述に即して読み取り、感想を深めることができる。  
(C 読むこと U)  
「現在 過去 未来」という文章構成を知り、その効果について理解することができる。  
(言語事項(1)オ(ア))

6 単元の評価基準

ア国語への関心・意欲・態度	イ話すこと・聞くこと の能力	ウ書くこと の能力	エ読むこと の能力	オ言語に関する 知識・理解・技能
文章から心に残る言葉や心の温まる ところを楽しんで 見つけようとして いる。 課題を持って自分 の力で読み取りを 進めている。			登場人物の心情の 変化や場面の様子 を叙述に即して読 み取っている。	雪国や物語を理解 する言葉に興味を もち、辞書やその 他の資料をもって 調べている。 物語のおもしろさ が構成にもあるこ とを理解している

- 1 日時 平成15年10月30日(水) 13:00~
- 2 学年 第6学年 男子 1名 女子 1名 計 2名
- 3 単元名 生き方や考え方を読み取るう 「海の命」
- 4 単元について

- ・ 本学級児童は、素直で言うことをよく聞き、学習に対しても指示されたことを最後までやること  
基礎・基本の内容はおおむね理解できている。  
児童は、これまで「やまなし」などの学習で、場面の様子や登場人物の気持ちを読み取る学習をしてきており、表現に即して主題に迫る読み方も学習してきた。しかし、全体として語彙数が少なく、行間を深く読んだりすることが難しい。そのため、登場人物の心情を深く考えたり、作品の中の人物との出会いから、自分の生活を見つめなおしたり、自分なりの思いや考えを持ったりすることはできにくい。朝の読書により、集中して本を読むことができるようになり、内容も読み取れるようになってきている。また、音読の機会を増やし、学校だけでなく家庭でも取り組み、発表朝会等では気持ちを込めた朗読ができ始めている。
- ・ 本教材は、太一の生涯と太一の周囲の人たちとの関わりを読み取ることを通して、自分の生き方と比べ、自分自身を見つめ直すきっかけとなるように設定されている。構成は、「海へのあこがれ」「夢を追う」「海の命と出会い」「海の命を守る」の4場面に分けられ、起承転結がはっきりしており、児童も理解しやすいと思われる。読み取りに際しては、太一の心情に迫りながら、自分の生きてきた過程と比べ、これからの生き方を考える契機とすることができるだろう。
- ・ 指導に当たっては、初発の感想から自分の学習課題を作り、課題の解決方法を考えて、自分の力でいかに作品を読み深められるか、ということに取り組みせていきたい。太一の心情を中心に読み取らせながら、自分の課題に迫らせたい。また、登場人物それぞれの言葉に含まれている思いにも注目させ、それぞれの「命」に対する思いや考えを読み取らせながら、生きる視点について考えさせたい。  
さらに、自分の生きてきた道と周りの人との関わりについても考えさせ、これから自分はどんな生き方をしようとするか、についてもまとめさせたい。  
研究主題を達成するために、自ら課題を持ち、その課題を解決していくために、課題設定、学習計画、課題解決方法を考える、という学習活動を取り入れた。課題の深さや学習方法の幅は広いとはいえないが、自分の力で課題を解決していく、という過程を少しずつ身につけていくことができると思う。

- 5 単元の目標  
「命」という生き方にとって大事なテーマに触れ、同じテーマの作品を探し、進んで読むことができる。  
(関心・意欲・態度)  
登場人物の言葉や行動から、生き方や考え方を読み取り、「命」について考えることができる。  
(C 読むこと(1)U)  
本文の語感の美しさや言葉の使い方に関心をもち、自分の作文に生かすことができる。  
(言語事項 (1)U(エ))

6 単元の評価基準

ア国語への関心・意欲・態度	イ話すこと・聞くこと の能力	ウ書くこと の能力	エ読むこと の能力	オ言語に関する 知識・理解・技能
「命」という生き方 にとって大事なテ ーマに触れ、同じ テーマの作品を探 し、進んで読もう としている。 課題を持って自分 の力で読み取りを 進めている。			人物の言動を通し て登場人物の生き 方や考え方を読み 取っている。	本文の表現の中か ら素晴らしいと感 る言葉を見つけ、 作文に生かそうと している。

7. 指導計画 (全7時間)

次	時	学習内容	評価					評価規準	評価方法
			関心・意欲	話す・聞く	書く	読む	言語		
1	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>全文を読み，疑問を中心に感想を書く</li> <li>疑問や気になる感想から，学習課題を決める。</li> </ul>						アー 自分の課題を持つために全文を読み通し，心に残る言葉を見つけ，感想に書いている。 アー 読み進める課題をもとうとしている。 オー 理解に必要な語句を辞書を利用して調べている。	感想文 行動観察 (発言) (つぶやき)
2	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題を解決する方法を決める。</li> <li>課題を解決するために読み進める。</li> <li>自分の課題を解決する。 (本時 3 / 5)</li> </ul>					アー 学習を解決していく方法を考え解決することができる エー わらぐつと人物の関係について読み，おみつさんの人柄や大工さんの考えについて読み取っている。 エー読 オー 「現在 - 過去 - 現在」という構成に気づき，登場人物の関係や考えを叙述に則して読み取っている。	行動観察(発言，学習の様子) ノートの内容 ノートの内容 音読	

7. 指導計画 (全7時間)

次	時	学習内容	評価					評価規準	評価方法
			関心・意欲	話す・聞く	書く	読む	言語		
1	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>題名からどんな作品か，想像する。</li> <li>全体を通読して，自分の感想や疑問を書き出す。</li> <li>疑問を中心に，読み進める課題を作成する。</li> </ul>						エー 全文を読み，初発の感想を持っている。 ウー 自分の疑問などをまとめて書いている。 アー 自分の課題を持つために全文を読み通し，心に残る言葉を見つけ，感想に書こうとしている。 オー 素晴らしいと感じた語句や言葉を見つけている。	行動観察 (発言) (つぶやき) ノートの内容 ノート観察
2	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>読み深めるための視点を持つ。</li> <li>作品を読み深めるための学習方法を決める。</li> <li>学習方法に従って，読み深める。 (本時 3 / 4)</li> </ul>						アー 学習を解決していく方法を考え解決しようとしている エー 人物の言動を通して，登場人物の生き方や考え方を読み取っている。	行動観察(作業内容) ノートの内容
3	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習を振り返って自分の考えをまとめる。</li> <li>「命」について自分なりにまとめる</li> <li>まとめを友だちと交流する。</li> </ul>						エー 「命」についての自分の考えを明確にするために経験したことや本を読んだり，考えたりして得た事例を入れ，文章の組み立ての効果を考えてまとめている。 オー 美しいと感じた言葉や表現を文章の中で書いている。	行動観察 (つぶやき) 作文の内容 作文の記述

8. 本時の展開

(1) 本時の目標

大工さんがおみつさんのわらぐつを買ってくれる理由から、大工さんの考えを読み取ることができる。

(2) 観点別評価基準

読む能力

表現に即して、おみつさんの人柄や大工さんの考えを読み取る。(エー)

(3) 本時の展開

評価規準と評価方法	指導上の留意事項	学習活動	わたり	学習活動	指導上の留意事項	評価規準と評価方法
		1. 今日の学習課題を発表する。 大工さんがおみつさんのわらぐつを何足も買ってくれたのは、どうしてだろう。		1. 今日の学習課題を発表する。 太一はなぜクエをつかまえなかったのだろう。		
		2. 学習方法を発表する。		2. 学習方法を発表する。		
・表現に即して、大工さんの考えを読み取る。 (ノート観察)	・大工さんの言動に焦点を当てさせ、大工さんの考えを考えさせる。 (書き込みノートの活用) ・会話文から考えさせる。	3. 学習場面を音読する。 4. 大工さんの考えがわかるところに線を引き、大工さんの考えをまとめる。 ・大工さんの行動や言葉から、大工さんの考えを理解する。 ・大工さんの考えをまとめる。		3. P. 14 ~ P. 19 を音読する。 4. クエと出会ったときの太一の気持ちを読み取る。 ・太一の行動とクエの様子に線を引く。 ・太一の行動とクエの様子から太一の気持ちを考える。	・正しくはっきりと音読させる。 ・本文の表現・言葉から気持ちを考えさせる。 (書き込みノートを活用させる。) ・課題を解決できない児童には捕らえてほしい言葉を示し、その言葉から気持ちを考えさせる。 ・自分の書きたいことを整理して書かせる。	・クエを生かした太一の気持ちを読み取る。 (ノート観察)
・表現に即して、おみつさんの考えを読み取る。 (ノート観察)	・大工さんとおみつさんの考えの共通点を見つけさせる。 ・比べながら読ませる。 ・自分の思いが表現できるよう支援する。	5. わらぐつを大工さんに買ってもらった時のおみつさんの気持ちを読み取る。 ・おみつさんの行動や言葉に注目して、気持ちを考える。		5. 「また会いに来ますから」と思う太一の気持ちを考える。 ・太一の行動や会話から、太一の気持ちをまとめる。		
				3. 太一の気持ちの変化がわかるように音読の練習をする。	・「かぎ」になる言葉を意識して読ませる。 ・「かぎ」になる言葉を確認しながら音読させる。	
	・気持ちを込めて読むよう工夫させる。 ・6年生にも聞かせる。	4. 大工さんの考えを発表し、その考えを意識して音読する。		4. 太一の気持ちの変化を発表し、まとめの音読する。	・言葉に抑揚がつけられるような読み方をさせる。 ・5年生にも聞かせる。	・太一の考えが聞く人に伝わるような読み方が工夫できる。 (朗読観察)
		5. 自己評価と次時の確認		5. 自己評価と次時の確認		

8. 本時の展開

(1) 本時の目標

クエと出会いながら、クエを捕まえることをやめた太一の気持ちを考えることができる。

(2) 観点別評価基準

読む能力

クエを生かした太一の気持ちを考え、まとめている。(エー)

太一の考えが聞く人に伝わるよう読み方を工夫している。(イー)